

## II. 病害虫ミニ情報

### ナシを加害するカイガラムシ類の休眠期における防除対策について

カイガラムシ類は、ナシをはじめブドウ、カキ等でも近年増加傾向にあります。今年発生が多かった園では、来年に備え休眠期に防除対策を行いましょう。ここではナシを加害するカイガラムシ類の休眠期における防除対策を紹介します。

#### 1. カイガラムシ類の被害と防除対策について

ナシを加害する主なカイガラムシ類には、クワコナカイガラムシ（写真1）、マツモトコナカイガラムシ、フジコナカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ（別名サンホーゼカイガラムシ）（写真2）、ツノロウムシ等があります。

カイガラムシ類の防除は、発生初期に行うことが重要ですが、防除適期を見逃してしまうとその後は防除効果があがらず、果実の奇形や着色むら等の被害を生じることがあります。さらに発生が多くなると、すすが生じ果実の商品価値が損なわれたり、枝の枯れ込みが生じたりすることもあります。

生育期に多発生した園では、さらに休眠期の防除対策を行うことが重要になります。



写真1 クワコナカイガラムシ



写真2 ナシマルカイガラムシ

(埼玉県病害虫防除所提供)

#### 2. 休眠期の防除対策について

主な方法は以下の通りです。なお、カイガラムシ類の種類によって有効な方法が異なるので、表を参考にして防除対策を選んでください。

##### ①バンド捕殺

コナカイガラムシ類は、枝幹の粗皮のすき間等で越冬するため、バンド捕殺によって越冬虫を減らすことができます。これは、9月中旬頃までに主枝等に誘引バンド（紙製の米袋や布等）を巻き（写真3）、このバンドの下に産み付けられた越冬卵や潜り込んだ越冬虫を処分する方法です。9月にバンドを設置した園では、越冬虫が活動を始める前の冬季（12月から2月まで）のうちにバンドを取り外して、バンドとその下にいる越冬虫を処分してください。

##### ②粗皮削り、誘引ひもの更新

冬季に粗皮削りを行うことにより、枝幹の粗皮のすき間等の越冬虫（卵）の密度を低下させることができます。また、ハダニ類と同様にコナカイガラムシ類等も枝を誘引するひもの下で越冬することがあるので、誘引ひものは処分し、更新しましょう。

##### ③虫体のこすり落とし、寄生枝の切除

剪定時に、虫体を見つけたら竹べら、たわし、ワイヤブラシ等でこすり落とします。また、寄生の多い枝は、切除します。特にナシマルカイガラムシは、寄生を受けて弱った枝に集中的に発生する傾向があり、枝を枯死させることがあるので、このような枝はできる限り全て切除してください。

#### ④マシン油乳剤の散布

特に多発生した圃場では、粗皮削りをした後にマシン油乳剤を散布します。散布は、厳寒期を避け、12月または3月の発芽前までに、温暖で風のない時に行ってください。

※ 樹勢の弱った樹では、マシン油乳剤の散布によって枝の枯れ込みが多くなるので、注意してください。

※ マシン油乳剤と石灰硫黄合剤の近接散布は薬害を生じるおそれがあるため、3月の発芽前にマシン油乳剤を散布した場合、石灰硫黄合剤は使用しないでください。



写真3 ナシの主枝に設置した誘引バンド

表 ナシを加害する主なカイガラムシ類の特徴と休眠期の防除対策

種類	コナカイガラムシ類	ナシマルカイガラムシ (サンホーゼカイガラムシ)	ツノロウムシ
被害の様子	袋かけ後、袋の中に侵入して果実に寄生した場合、被害が大きい。果実の寄生部位はへこみ、着色が悪くなる。また、虫体の分泌物にすす病菌が寄生して、果実を汚す。	果実に寄生すると、外観を損なう上に奇形となり、亀裂を生じることもある。樹勢の弱った枝での寄生密度が高まると、枝が枯死することもある。	主に発育枝や樹勢の強い当年枝に多く寄生する。葉や果実にすす病を生じるため、特に無袋栽培で被害が生じる。
主な越冬場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>枝幹の粗皮間隙</li> <li>カワモグリの被害跡</li> <li>誘引ひもの中や下</li> </ul>	寄生場所(枝や幹)のカイガラ下	枝や幹
越冬形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>卵(クワコカイガラムシ)</li> <li>幼虫(マツモトコカイガラムシ、フジコカイガラムシ)</li> </ul>	幼虫(一部雌成虫)	成虫
有効な休眠期の防除対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>バンド捕殺</li> <li>粗皮削り</li> <li>誘引ひもの更新</li> <li>マシン油乳剤の散布(粗皮削りをしてから散布を行う)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>虫体のこすり落とし</li> <li>寄生枝の切除(特にナシマルカイガラムシは、寄生の多い枝をできる限り全て切除する)</li> <li>マシン油乳剤の散布(寄生が多い場合はたわしやワイヤブラシ等で虫体のある程度こすり落としてから散布を行う)</li> </ul>	